

令和6年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

令和6年4月9日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、時代が求める「学び」への取り組みを進め変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。豊かでたくましい人間性を育み、キャリア教育を充実させる。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成</p> <p>◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進</p> <p>◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進</p> <p>◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む</p> <p>◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進</p> <p>◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールミッション、スクールポリシーにより、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p> <p>・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践のため、地元地域の力を生かし、次年度のインターンシップ教育に向けて具体的な準備を進める。</p>	<p>◎時代が求める「学び」への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的学びへの高いモチベーションの構築 ・対話的学びへ向けたコミュニケーション能力の向上 ・「深い学び」及び「個別最適な学び」に向け、タブレット端末等ICT機器を活用した教育活動の充実 ・学力に応じた手立てと指導の工夫 ・規律ある学び風土の醸成 <p>◎豊かでたくましい人間性の育み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感やコミュニケーション力を向上し、他者を思いやり良好で発展的な人間関係を構築する力を身につける ・行事等を通して非認知能力を育み、人格形成を図る ・学校生活全般における生徒の主体的参加の推進 ・部活動の積極的参加と体験活動の充実 ・地域、保護者とともに、次代の社会を築き、守り、担う人材(生徒)を育てる <p>◎キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・汎用的能力の育成を踏まえたキャリア教育の計画・実践 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践 ・地元地域の力を活かしたキャリア教育の推進 ・次年度のインターンシップ教育に向けた具体的準備 			
評価領域	重点目標	具体的方策	中間	最終	総合	成果と課題
教育課程 学習指導 (教務部)	単位不認定者を出さない学習指導を行う。	学習面で自信をつけさせるため、授業を受け、課題に取り組んで提出し、考査を受ければそれなりの成績が取れる。このような「やればできる」ことを生徒が実感することができる学習指導を行う。課題のある生徒に対しては、一人一人の課題に応じ、丁寧な指導を行う。教科内あるいは学校全体でこのような実践を共有を図り、さらに可能性を広げた実践に繋げる。				
	「将来必ず役立つ」と生徒自身が実感できる学習指導を行う。	各教科で学習内容を精選し、生徒自身が「これは将来必ず役立つ。だから勉強しよう。」と実感することが出来る学習指導を行う。学習内容の精選にあたっては、教科の枠を超えて、学習内容が重複しないよう各教科・科目間で連携を図る。学習内容の定着を図るにあたっては、「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう、授業形態や授業の進め方を工夫する。				
	授業力向上を目指す。	研究授業や公開授業週間のみならず普段の授業を通じて学ぶ機会を昨年度より多く設定し、若手は勿論、ベテランの先生方にも意欲的に研鑽を積んでいただけるような機会を設け、授業改善や授業力向上のための一助とする。また、先生方にも、研鑽を積み、教科教育に係る専門性を高めていただけるよう、さまざまな研修や教材・教具等の情報提供を行う。				
生徒指導 (生徒指導部)	基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を全教職員と協力して、育成する。	自分自身を第三者目線で見ることや自身の行いを振り返り、落ち着いて学習に向かえる環境を作り、自律できる力を育むことで、生徒指導件数減少につなげる。 指導生徒の理解に努め、「課題予防的生徒指導」を有し、個々に合った生徒指導を実践する。また、全ての生徒が認められている・満たされているとの思い(自己有用感)を獲得できる取組を行う。				
	褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高める取組を進める。	各行事への取組を通して、クラス・委員会の自治力を高め、自分たちで行事を創り上げる力を育成する。行事後、「やりきった」と達成感を得られる生徒の割合を増やす。				
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめ許さない態度・能力を育成するために、人権学習を充実させ、日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。				
3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。					
	多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、新たに「プレゼン・トライアル」を実施し明確な目標や目的意識を持って学習に取り組ませる。志望理由書・小論文対策として、生徒に「書き方講座」の受講、小論文模試の受験を課す中で文章の書き方の基礎を固めさせ、全教職員による個別指導につなげていく。					
	各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。その道のりにおいてWEBテスト、動画などを効果的に活用できるよう導く。					

進路指導 (進路指導部)		入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。			
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。			
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。			
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。			
進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーしたり、昨年度より実施している自己投資会の取り組みを継続して行うなど、生徒が計画的・自発的に学習するためのきっかけづくりや環境整備を行う。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にす取り組みや進学補習・夏期進学セミナーなどを充実したものにさせる。書く力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。				
	進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより適切な情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め具体的な見通しを持たせる。2年生の3学期までに生徒が自らの志望を宣言できるように導いていく。				
ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	生徒の学習習慣を形成し、自ら伸びていく力を育むために、WEBテスト、動画の配信、学習時間の記録などの教材やしくみを効果的に使っていく。				
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担任・教科担当者と共有し、支援体制を整える。			
	生徒の健康についての意識を高める。	薬物乱用防止教室や性教育講演会を実施し、適切な行動選択や意思決定が可能な生徒の育成を図る。また、健康診断等の事後指導に力を入れ、自身の健康についての生徒の意識を高めるよう試みる。			
	環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間でのゴミ分別・削減の取り組みを行う。			
特色推進 広報活動 ICT教育 読書指導 (総務企画部)		学校ホームページや公式SNSを随時更新して、本校の教育活動や生徒の様子等について発信を行う。			
	・ホームページや公式SNSを通じての広報活動を充実させる。 ・学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、学校と地域・保護者との相互の良好な関係性を構築をする。	学校公開では、中学生にとって”この学校に通いたい”と思ってもらえるようなインパクトのあるものにするために、工夫を凝らす。			
		学校の内外に向けて丁寧な情報提供を行い、保護者や地域、中学校から信頼される学校を目指す。			
	・1人1台の学習用端末導入及びMDMの緩和を受けて、生徒が端末を自己管理できる力を養うためのサポートを行う。 ・端末の管理・整備を行うとともに、教職員へのICT教育への関心・意欲やICTのスキルを高めるための研修を行う。	学習用端末やアプリ、各アカウントの管理やトラブルの対応を行い、生徒と教員が円滑に授業でICT活用できるようにサポートする。また、利用規程や使用方法を周知し、情報モラルの向上を図る。			
		学校全体でICT活用が進むよう研修会等を通じて、操作方法や活用方法・活用事例の共有を行う。			
生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。		図書館だよりや図書委員会だよりを定期的に発行し、生徒おすすめ図書などの情報を提示する。また、図書委員会の活動を通じて、本の魅力を発信する。			
		教科での図書資料活用の推進や一斉読書週間の実施を通して、本に触れる機会を確保する。			

教育環境整備 (事務部)	・安心・安全な施設設備の維持管理を図る	定期的に施設設備の点検を実施し、危険箇所等の早期発見、早期対応に努めるとともに、安全に施設設備を使用できるよう維持管理に努める。また、本年度執行されるグラウンド施設等の改修工事について、生徒の学習環境を保障するため関係分掌との調整を図る。多様なニーズを持つ生徒についても日常にできるだけ不自由がないように環境の整備に努める。			
	・特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効率的に執行する	各分掌・教科との連携をとりながら効率的な予算執行に努める。			
	・修学支援	援護制度について周知を図り、生徒の修学や希望進路の実現を支援する。			
第1学年部	社会に出て通用する規則的で正しい生活習慣の確立	学校生活のルールが定着するように、積極的に声掛けをする。また、できていない生徒に対して個別に対応するだけでなく、集団として良い方向に導く。			
	自学自習を最終目標とする学習習慣の確立	日々の授業を大切にすることを伝えることで、基礎学力を身につけさせる。あわせて、自宅学習が必要となるような課題を教科と連携して提供することで、家庭学習の習慣をつけさせる。			
	常に目配り、気配り、心配りを行い、お互いに協力し合える集団の形成	様々な生徒が同じ環境にいることを理解させ、お互いを認め合いながら常に自分事として考える機会を設け、人権に配慮できるよう啓発活動を行う。			
第2学年部	社会をつくる一員になることを展望しながら、主体的に学校生活に取り組むとともに、具体的な進路目標を持てるよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間やメ切を守って行動できるように促し(遅刻・欠課をしない、ベル着、提出物メ切を守るなど)欠席・遅刻過多による原級留置を減らす。 ・プライベート、オフィシャル、フォーマルの違いを意識させながら、TPOに応じた身だしなみが自発的にできるように指導する。 ・スマホや学習端末の使用ルールを理解し、守れるように促す。SNSとのつき合い方についても考えさせる機会を作りながら、正しく使用できるよう促す。 ・すぐに答を得ようとせず、まずは自分の力でやってみよう促す。 ・以上のことについて、他分掌と連携しながら、また保護者の理解を得ながら日々の指導に当たる。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は指示をよく聞き、主体的に授業に参加するとともに、考査前にとどまらず学習する習慣を身につけるよう促す。つまずきを抱える生徒に対しては個別指導も含めて丁寧に指導に当たる。 ・ことばの力の育成に努め、思考や感性を育む。HRなどを通じて様々な文章を読ませ、多様な考え方を知る機会をつくる。また討論の機会に積極的にコミュニケーションを図るよう促す。自己推薦書や感想文については、正しい原稿用紙の使い方、正しい標記で用紙いっぱいを書くように促す。相手に伝わるように表現を工夫するよう促す。 ・進路指導部と連携しながら、卒業後の進路についての情報提供を適宜行い、卒業後の具体的な進路目標が持てるよう援助する。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・お互いが気持ちよく過ごすことができるように、挨拶、場面に応じた言葉遣い、清掃活動やゴミの分別ができるように促す。また下足箱やロッカー、学習用端末がきちんと自分で管理できるよう呼びかける。 ・人権について様々な機会に考えさせ、正しい理解をするとともに自分の言動につなげることができるよう指導する。研修旅行に向けて、教科とも協力しながら適宜平和学習に取り組む。 ・行事や部活動、生徒会活動などに主体的に取り組めるよう、委員会の活動を活性化させるとともに、自分とは合わないと感じられる相手とも協同してものごとに取り組むことができるよう指導する。 ・各分掌や各部活動顧問、保護者と連携しながら、生徒の実態把握に努め、細やかな指導に生かす。特別な支援が必要な生徒についての情報共有を図る。 			
第3学年部	社会に出る最終段階である、成人を迎えることなどに意識を持ち、規範意識や社会性の育成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業を大切に、学習に取り組むよう促すために教科担当者と密に連携を図りながら生徒の情報把握に努める。そのために定期的に教科担当者に授業状況アンケートを依頼し、生徒への指導を早期に行うことができるようにする。 ・進路実現に向け、個人面談等を充実させるために進路部と連携し、生徒が具体的に進路について考え、進路実現できるようサポートを行う。また、学年の中でも密に生徒の情報共有を行う。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを守る規範意識の育成のため、気になる生徒については関係分掌とも早期に連携を図り、対応ができるようにする。また、1限目の欠課を減らすため、学年の中でも遅刻に対する指導を行う。 ・学年全体で指導を行ったり、生徒の良い面を見つけ、伝えるためにもSHR等では定期的に担任をシャッフルし、自クラスだけでなく他クラスの生徒とのコミュニケーションを図る機会を増やす。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として学校行事などにも一生懸命取り組むよう促す。その中で学校に貢献できるような力を育成する。 ・進路実現に向けてや日々の学校生活の中で他者を応援できる力を育成する。 			

評価の基準 A: 十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B: ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C: 達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D: ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	